實性寺 表千家茶道 月稽古 10 令和四年

風炉名残の茶

- 初炭
- 濃茶
- 後炭
- 薄茶

掛物　開門落葉多

開門落葉多

［掛物］「開門落葉多」　義山老師

［花入］耳付　大樋焼

花　「浜菊」「むくげ」「縞芦」「水引」「祇園守り」「秋明菊」「金水引」「萩」「ススキ」「ホトトギス」「秋海棠」

花

［香合］つぼつぼ蒔絵　即中斎宗匠七回忌

［炭斗］油竹

［風炉］鉄道安

［釜］刷毛目姥口

香合　つぼつぼ蒔絵

［水指］細水差　備前　兼中斎宗匠箱

［茶入］瀬戸肩付　即中斎宗匠箱

仕服　金剛金襴

［茶碗］伊羅保写し＝永楽即全作

替　紅葉絵＝永楽即全作

〃　大仏茶碗＝萩　陶兵衛作

釜　刷毛目姥口

水指　備前

茶碗　伊羅保写し

替茶碗　紅葉絵

替茶碗　大仏茶碗

［茶杓］「幽香」　浩明老師

［薄茶器］金城棗　即中斎宗匠判

建水　信楽大脇差写し

蓋置　即中斎宗匠判　引切

［菓子器］萩　木瓜型＝新兵衛作

［干菓子器］菊型　而妙斎宗匠判

菓子　「織部饅」「栗名月」「木練柿」「栗蒸羊羹」「栗粉餅」

干菓子　「そば板」「野菊」「鎌倉の彩」「福うさぎ」

濃茶　猶有斎好「楽寿の昔」＝柳桜園

薄茶　猶有斎好「清友の白」＝柳桜園

茶杓　幽香

薄茶器　金城棗

蓋置　引切

中置き

- 掻き上げ灰にて　掻き上げの数自由
- 水指の置き用、身体の廻り方
- 茶碗の仮置き、足の運び方
- 炭点前の炭斗、羽根の置き用